

石原裕次郎さん23回忌法要 7月5日国立競技場

2009年(平成21年)7月3日 金曜日

創刊 65th 地域とともに

第2部
(保存版)



発行所 埼玉新聞社

〒331-8686 さいたま市北区吉野町2-282-3 TEL 048-795-9930(代)

購読申し込みは

フリーダイヤル ムササビ パパバ
0120-633-888

裕次郎よ、永遠に

天国からのラストメッセージ

ありがとう

石原裕次郎二十三回忌



YUJIRO
ISHIHARA
23rd
MEMORIAL



石原裕次郎

1987(昭和62)年7月17日午後4時26分、肝細胞がんのため、52才で永眠した石原裕次郎の23回忌法要が7月5日国立競技場で営まれる。昭和30年代「太陽の季節」や「狂った果実」、「陽の当たる坂道」などの日活青春映画で、若者のチャンピオンになった裕次郎。40年代には、大作「黒部の太陽」、「栄光への5000キロ」で高度成長期の旗手となった裕次郎。そして、50年代には、テレビ「太陽にほえろ」や「大都会」、「西部警察」のボス役で理想の上司像として信頼された裕次郎。

日本人が最も愛した男、昭和の太陽、裕次郎は三つの世代の代表として、時代の若者たちに圧倒的な支持を得て駆け抜けていった。数多くの映画、ドラマ、ヒット曲は死してなお多くの人の脳裏に刻み込まれている。

その人気と遺徳をしのんで、裕次郎が眠る鶴見・総持寺を横して建立された「裕次郎寺」には、十数万人が押し寄せそう。この日の模様は、テレビ朝日系列で生中継され、日本中に「裕次郎、永遠に」コールが湧き上がりそう。

(脇田 巧彦)

スケールに、度肝を抜かれた報道陣

5月20日、国立競技場で行われた石原プロ主催の「天国からのラストメッセージ」の限定メッセージ「ありがとう」石原裕次郎二十三回忌の実施概要を目の当たりにした報道関係者は度肝を抜かれた。

いつもはサッカー競技場が行われる国立競技場に裕次郎が眠る神奈川県鶴見・総持寺を模した巨大な裕次郎寺を建立するというのだから。

裕次郎夫人のまき子さんは「法要の内容は昨日知らされました。裕次郎にもぎやかなことが大好きでしたが、これほど大げさとは、ファンの方々への感謝と御礼の気持ちです」。

石原プロ社長の渡哲也は「過去の法要で総持寺の周囲の住人、商店街の方々、警察にもご迷惑をおかけしたので、一日だけ国立競技場に裕次郎寺を作ることになりました」。



そこで発表されたのが「石原裕次郎二十三回忌・特別記念品」の限定メッセージ「ありがとう」石原裕次郎と、メモリアルブック「昭和の太陽 石原裕次郎」を5万部にプレゼントするという内容。

「一刻者は、芋1000%。アルコール度38度。容器は陶器製。720ml入り。パンチがあり、ロックで飲むとグッド」と評している。

「予想をはるかにしのぐ応募はがきは天を突く75万通」

石原プロの小林専務は「30万通は来るだろう」と予測していたが、締め

切り後に枚数を数えたら75万1170通の応募はがきがビックリ。「こりゃあ、えらいこっちゃ」と、裕次郎偉大なりを再確認させられたという。抽選会は6月15日、総持寺にはがきをトラックで運び込み、渡哲也社長ら立会いのもとに行われた。中には10万円の現金入り封筒もあり、返金したとのこと。

当選はがき5万枚は、10人のスタッフが1週間かけて抽選。さらに別の15人が同じ日に当たらないようにコンピュータでチェック。そして、偽造防止のために加工された引換券を当選者に郵送して、5日に備える。



現場には石原プロの俳優、船ひろし(59)徳重聡(30)がヘルメットをかぶり、待ち構えていた。「すでにそこにあったかのように自然に建っているねえ」と、船が言うように、鉄骨200トンを使った本建築。この日は、耐水検査も終わった。

国立競技場の建立現場は鉄板を敷き詰め芝が痛まないように養生する。

当日は、160人の僧侶、300人のコーラス隊が裕次郎メロディを歌う中、献花をするこ

高さ17メートル本格建築の裕次郎寺出現

さて、注目の「裕次郎寺」はどんなものなのか? これもまた、6月3日にお披露目された。

新宿西口から3台の石原プロのマイクロボスに分乗、連れて行かれたのはつくば市の熊谷組技術研究所。

大手ゼネコンの敷地内に高さ17mの裕次郎寺は実寸大に仮組され

国立競技場に移築する際には、3000バットに解体して、10トトラックで、延べ500台、5日間かけて組み立てる。屋根には400万円の鬼瓦を15枚、石原家の家紋「七つ矢車」を彫りこんだ巴瓦も。

当日は、160人の僧侶、300人のコーラス隊が裕次郎メロディを歌う中、献花をするこ



すべてが裕次郎を愛して下さった人々のために感謝を込めて

まき子夫人「こんなに長い間、裕次郎を愛してくださった方々に感謝します。裕次郎は本当にいい人だったんです」

渡哲也「裕次郎さんの足跡を汚さぬよう、この23年間をつとめてきました。一番の思い出は、亡くなる1年前ハワイで運転手をつとめたり、バーで一緒に酒を飲んだことが強烈に残っています。裕次郎さんを通して多くの人を知り、言葉ではなく遠回しにいろんなことを教えてもらいました。はぐれ者の自分がまともになれたのは裕次郎さんのおかげです」

まさに錦の御旗、裕次郎の名前はケタはずれ

小林正彦専務「十七回忌では、3日前から2万5千人



が並びました。今回は5万人の名前をあげて交渉して断られたことは一度もありません。まさに錦の御旗、裕次郎はケタはずれです」

当日は、供花・供物の類は一切受け付けず、すべて自費で賄うとしている。

そう、仲の良かった長嶋茂雄氏も列席とのうわさも。実兄の石原慎太郎都知事のあいさつも予定されている。

国立競技場に建立される一夜城の裕次郎寺。20トトラック400台、10トトラック400台、4トトラック200台、高所クレーン180台、フォークリフト150台、高所作業車200台、いずれも10日間投入される数だ。

これらの作業は500人の運営部隊により、工事設営作業部門は10日間8000人。さらに、グラントキーパー、トビ職人、場内整理200人、警備員は500人を配備し、事故を防ぐ医師5人、看護師10人も、当日お土産5万セツトを渡すが、渡し隊200人、これだけを詰め込むだけで、3000人で6日間かかった。

とてもない物量人海戦で遂行される「昭和の太陽」裕次郎の二十三回忌。その費用は13億円とも言われる。